神経研究所（NIN）

National Institute of Neuroscience

新しい薬と技術の開発：難病を“治す”ために

免疫研究部　特任研究部長
山村 隆

免疫研究部では、免疫系の暴走によって起こる脳神経系の病気（多発性硬化症MS、視神経脊髄炎NMOなど）を“治す”ために、新しい薬や技術の開発を進めています。難病にやみくもに立ち向かう時代は20世紀で終わり、私たちは、まず敵の正体（免疫系の変調）を見極め、それにあった対処法を考えることで、画期的な治療を生み出すことができると考えています。このような理論にもとづいて、患者さんの血液を調べる研究を進めた結果、病気に関連したリンパ球や炎症因子を発見し、これがNMOの新しい治療法（抗IL-6受容体抗体療法）の開発につながりました（NEJM 2019）。また、MSの治りにくさ（＝慢性炎症）の謎を解き明かす研究を進めるなかで、治りにくさに関係するリンパ球、遺伝子素因、腸内細菌なども明らかになり、新しい治療への展望が開けてきました。また病院と連携して医師主導治験を実施し、新薬の開発に挑戦を続けています。

精神保健研究所（NIMH）

National Institute of Mental Health

薬物問題にかかわるすべてを扱う：実験、調査、そして治療

薬物依存研究部長
松本 俊彦

精神保健研究所薬物依存研究部は、3つの研究室から構成されています。心理社会研究室では、薬物の広がりや使用者の背景を明らかにすべく疫学研究を、依存性薬物研究室では、薬物の毒性・依存性を明らかにするために行動薬理学研究を、そして診断治療開発研究室では、センター病院において診療活動をしながら臨床研究を行っています。

また、当研究部では、センター病院と協働して専門疾病センタ（「薬物依存症センター」）も運営しています。なお、同センターは、厚生労働の依存症総合対策における薬物依存症全国拠点、ならびに、東京都の薬物依存症治療拠点機関としての機能も担っています。

薬物依存症は多面的な病気です。時代によって刻々と変化する「環境」の中で、脆弱性を抱える「個体」が依存性のある「物質」と遭遇し、相互に影響をしあって生じます。私たちは、「物質」「環境」「個体」という3つの観点のいずれもおろそかにすることなく、薬物依存症をめぐる諸問題と向き合い、研究を続けています。

NCNP 診療ニュース

TOPICS

DMD患者さんへの情報冊子作成の取り組みについて

2023.3
Vol.33

診療科紹介
精神診療部
各部門紹介
精神リハビリテーション部
療育指導室
専門疾病センター紹介
統合失調症早期診断・治療センター
睡眠障害センター
活動紹介
神経研究所
精神保健研究所

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース　Vol.33　2023年3月発行
国立精神・神経医療研究センター病院　発行責任者：病院長 阿部康二
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
Tel.042-341-2711（代表）　https://www.ncnp.go.jp/

DMD患者さんへの情報冊子作成の取り組みについて

身体リハビリテーション部
作業療法士
上村 亜希子

NCNP身体リハビリテーション部では、作業療法部門を中心にDMD（デュシェンヌ型筋ジストロフィー）の患者さんとご家族を対象に、日常生活及び社会生活に関する情報発信に取り組んでいます。これまでに、在宅生活を送るためのヒントとして下記の6テーマの情報冊子が完成し、来院された患者さん・ご家族への配布及び病院ホームページ上での掲載をしています。

DMDも含め、希少疾患や難治性疾患の患者さんの実際の生活の様子を知りうる情報や報告は少なく、診療の中でも「周囲に同疾患の人がいない、皆さんはどうしているのか」という声は多くあります。NCNPは長くDMD患者さんの診療に取り組んでおり、リハビリテーション部には、幼児から成人まで200人弱のDMD患者さんが定期的に外来通院されています。そのため、当部門では多くの患者さんの事例に基づいての具体的な日常生活、社会生活に関する情報を蓄積しています。それを分かりやすく、院内だけでなく院外にも発信し、より多くの人と情報を共有することは重要であると考えてきました。

私たちは、今後も患者さんに役立つ有益な情報を発信していきたいと考えています。日常生活・社会生活を送るヒントを見つける一助としてこの冊子を活用して頂けたらと思います。

〈発信している6テーマ〉

- 就学・小学校編
- 高校進学編
- 就労編
- 車椅子編
- 日常生活編
- 住環境編

現在、「大学進学編」「一人暮らし」「福祉車両」というテーマでも作成を進めています。

NCNP　生活のQ&A集
https://www.ncnp.go.jp/

NCNP 病院 診療科紹介

精神診療部

精神科病棟での診療

精神診療部医長
藤井 猛

当院の精神科では、統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害）などの精神疾患の患者さんに対して、当院の精神科外来や近隣の医療機関からの入院や転院のご依頼を受けて、入院治療を提供しています。現在は3病棟のうち1病棟で新型コロナウイルス感染症に罹患した精神疾患患者さんの入院治療を受け入れているため、一般精神医療は2病棟（ともに閉鎖病棟）82床で運用しております。今回はそのうちの5階南病棟での入院治療の特徴についてご紹介いたします。

入院患者さんの主診断ごとの内訳では、気分障害、不安障害、統合失調症の順に多くなっていますが、薬物依存症、認知症、睡眠障害、発達障害、てんかんも含め大変幅広い疾患に対する入院治療を行なっております。うつ状態が遷延したり、妄想を伴ったり、自殺リスクが高かったりといった重症の患者さんが比較的多く入院されています。また、脳神経内科、外科、整形外科、外科、身体リハビリテーション部、消化器科、循環器科、総合内科などの協力を得て、神経筋疾患、消化器疾患、骨折など身体合併症を持った精神疾患患者さんの治療にも当たっています。さらに、他院に通院中の患者さんに対しては、短期間の入院で多くの検査を受けて頂ける気分障害（うつ症状）検査入院パッケージや光トポグラフィー、睡眠検査入院プログラムといった検査入院も実施しております。

当病棟の入院患者さんの年齢は10代後半から高齢者の方までとても幅広くなっています。平均在院日数は40日弱と精神科病棟としては短く、入退院が多く回転が早くなっております。

精神科治療としては、薬物療法、精神療法、環境調整のみならず、気分障害に対する修正型電気けいれん療法（mECT）や反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を多数実施しています。また、睡眠障害に対する高照度光療法や薬物依存症に対する治療プログラム（FARPP）を実施しているのが特徴になります。診断や治療方針に関しては、毎週、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、精神保健福祉士からなる多職種医療チームでカンファレンスを実施し、専門的な視点から検討する多職種チーム医療を実践しています。

反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）の様子

多職種カンファレンスの様子

NCNP病院
各部門
紹介

精神リハビリテーション部

精神リハビリテーション部　部長　吉田 寿美子

リカバリーパスで回復状況を可視化、より効率的な精神リハビリを提供。

リハビリテーションは、精神科において薬物療法と並ぶ重要な治療法の一つで、入院・外来・地域をつなぐ「橋渡し」の役割を担っています。

昨年からNCNPのデイケアは最長2年の完全卒業型になりました。4つのステージがあり、患者さんには現在のステージをお伝えし、適したプログラムと到達目標を提案しています。各ステージを駆け抜けていく方、戻りながらゆっくりと進んでいく方とペースは様々です。2年間という期限を意識することでステージにかける期間や、選択するプログラムなどについて自主性が現れ、また、患者さん同士が支援しあう様子も見られます。デイケアは他の医療機関に通院中の患者さんにもご利用いただけます。見学も可能ですのでお気軽にご連絡・ご相談ください。

療育指導室

療育指導室　主任保育士　中井 まどか

患者さんの毎日を豊かに

2階南病棟・6病棟は「療養介護」及び「医療型障害児入所施設」として登録されていて、医療、看護、介護、療育、リハビリテーション、学校教育が連携し、重い障害をもつ方々の生活を支え、ライフステージを保持する役割があります。その中で療育指導室は、患者さんの余暇活動を中心とした日常生活全般を支え、ご家族、地域をつなぐお手伝いをしています。

コロナ禍による活動の制限が続くなかで、患者さんの抱えるストレスや不安、不穏な状態を和らげるために何ができるのか悩み、工夫しながら活動しています。

現在は、少人数で制作活動や散歩などを行っています。季節の行事も徐々に再開し、今年度は恒例だった「みんなの作品展」も開催できました。オンラインでの面会や芸術鑑賞会も行っています。

今後も個々とじっくり関わる時間を大切にしながら、患者さんの毎日を豊かにする支援を行っていきます。

統合失調症早期診断・治療センター

早期の診断と治療による回復のために

統合失調症早期診断・治療センター長
精神診療部 医長　吉村 直記

当センターでは、主に発症後5年以内の統合失調症の患者さんを対象に、専門外来で診察後、当センターのデータベースへ登録された方には、統合失調症の症状で最近注目されている認知機能障害に関する検査を行い、その結果を患者様へご説明しています。また、1年ごとのフォローアップ検査によって、認知機能の縦断的な評価も行っています。さらに、精神科専門看護師による患者手帳などを用いた統合失調症の心理教育も行っています。病気の予兆がある患者さんに対して、発症を予測する因子の研究も行っています。

専門疾病センター

NCNP病院には現在12の専門疾病センターがあります。
診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的医療を行います。

睡眠障害センター

専門性の高い睡眠医療を提供いたします

睡眠障害センター センター長
臨床検査部 睡眠障害検査室 医長
松井 健太郎

睡眠障害センターは、様々な睡眠の悩みをお持ちの方を全国から受け入れており、昨年度は600名を超える新規患者さんが受診されました。外来診療、専門的な検査、入院治療を実施可能な体制を整えて専門性の高い睡眠医療に取り組むとともに、抑うつ症状への効果が期待される断眠療法プログラムなど、最新のエビデンスに基づいた介入も実施しています。

- ●ナルコレプシーを含む中枢性過眠症の診断・治療
- ●夜間の異常行動を生じる睡眠時随伴症の診断・治療
- ●睡眠・覚醒リズムの是正を目的とした入院治療
- ●初期治療で改善しない不眠症状への対応

3月19日（日）
市民公開講座を開催します

「睡眠と健康：
時間と質の両面から考える」
十分な睡眠時間の確保や質の良い眠りをとることとの健康指標と関わり、質の良い眠りを取るための工夫について
※詳しくは病院ホームページをご覧ください。

「眠りと目覚めのコラム」連載中！

頭痛専門外来のご案内

病院長
阿部 康二

国立精神・神経センター病院では、2022年1月から外来診療枠を拡大し新しく専門外来も開設して、患者さんへの診療サービスをこれまで以上に向上することになりました。

その一つが頭痛専門外来です。ストレス社会の蔓延で頭痛患者さんは増加しています。時々頭痛がする、頭が重い、頭痛で会社や学校を休むといった症状があったら、当院専門外来での専門医による診察をお勧めします。

- 時々頭痛がある
- 頭痛がひどい
- 肩コリや首コリもある
- 頭痛で会社や学校を休む
- 頭重が取れない
- 吐気や流涙を伴う
- だんだん頭痛が酷くなってきた
- 頭がズキズキ痛む

担当医と予約時間	
阿部病院長	毎週水曜日午前
髙尾総合内科部長	毎週水曜日午後
髙橋脳神経内科部長	毎週水曜日午後

パープルデー（てんかんの啓発活動）を知っていますか？

てんかん診療部
医長　谷口 豪

てんかんは、てんかん発作が主症状の脳疾患です。小児から高齢者まで発症することがあり、有病率は100人に1人と言われています。よく知られている病名ですが、正しく理解されているとはいえず、時に過剰な制限や誤解・偏見が患者さんに向けられてしまうこともあります。そのため、学会や患者会による様々なてんかんの啓発活動が行われています。その一つが毎年3月26日に行われるパープルデーです。当時8歳の少女が自身のてんかんについて学び、同級生にオープンにすることを通じて自信を取り戻すことが出来たのが、この活動のきっかけです。孤独感に苦しむ患者さんや家族たちに応援のメッセージを発信する活動が、今では世界に広がっています。

今年もパープルデー前の3月24日（金）に病院内イベントを企画しています。ぜひ、紫のものを身につけてご参加ください。

2022年3月25日に行われれた、パープルデーイベント in NCNPの集合写真

ご存じですか？　NCNP 及び NCNP病院　公式アカウント

https://twitter.com/NCNP_PR

YouTube https://www.youtube.com/user/NCNPchannel

https://www.instagram.com/ncnp.pr/ NCNP公式
https://www.instagram.com/ncnp_hospital/ 院長室

NCNP公式　院長室

ぜひ、フォロー・チャンネル登録をお願いします!!

NCNPプレスリリース（https://www.ncnp.go.jp/topics/）

- The LANCET Neurology誌への山村隆特任研究部長特別寄稿「Time to reconsider the classification of multiple sclerosis」が掲載されました
- うつ病患者に対するヴァーチャル・リアリティを活用した認知行動療法の臨床研究の開始
- 東京大学 生産技術研究所と国立精神・神経医療研究センターとの 連携・協力協定の締結について
- 本邦のPTSDの心理療法に新たな選択肢 ―認知処理療法（CPT）の実行可能性を確認―

Nature

NCNP四季便り

情報システム顧問　永井 秀明

ツリガネスイセン（釣鐘水仙）

園芸店ではシラー・カンパニュラータの名前で売られています。

ヨーロッパのイベリア半島原産で、学名はヒヤシンソイデス・ヒスパニカ。

別名スパニッシュ・ブルーベル。

日本名では水仙の名がついていますが、学名から想像できるとおりヒヤシンスに近い種です。

園芸用に輸入された花が、どういうわけかセンターに自生していて、花の青色が春の緑に引き立ちます。